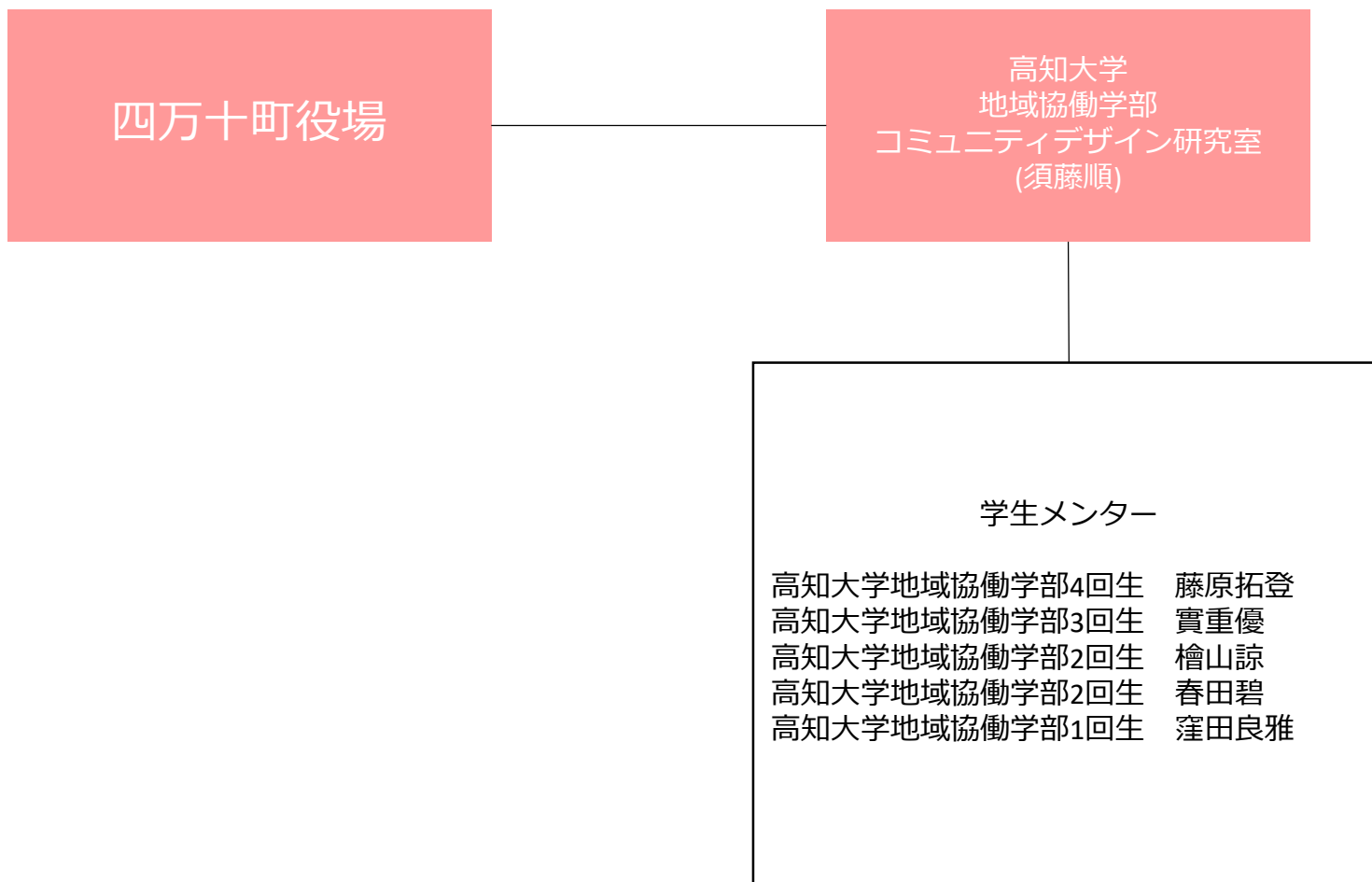




2019年度 四万十町地域イノベーター養成講座 第5回 ビジュアルレポート

高知大学地域協働学部
コミュニティデザイン研究室



**1人ひとりが自分事として、
地域課題解決や活性化を目指す
「チャレンジする人材」の学びの場**

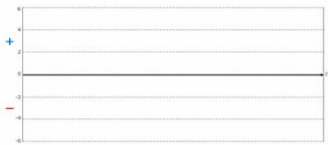
- ① 一人ひとりが自分の経験の中から、自分自身のミッション（使命）を見つけ出す
- ② “ジブンゴト”で取り組むことができるプロジェクトを自分自身で生み出す
- ③ ジブンゴトのプロジェクト（マイプロジェクト）に取り組む仲間同士がともに切磋琢磨しながらも支え合う関係を創る

- 1 安心・安全の場をみんなで創ろう
- 2 ありのままの自分を素直に出そう
- 3 仲間・プロジェクトを評価しない
- 4 プロジェクトは変わってOK
- 5 お互いに貢献し合う

自分に基づいた (My)

「何かを、プロジェクトの形にして (pjt) やってみる」
ことから始まる、自分や世の中の変化の物語

自らの経験の中から、
自分のミッションを生み出していく

マイプロ Me編	名前 (ニックネーム、読んでほしい名前、その由来)	作成日： 場所：
似顔絵・写真	みんなが知らない自己紹介	
自分ヒストリー 音 (～)学校	人生グラフ：横軸は年で、縦軸はイキキ度(幸せ度)。人生で輝いていた時、沈んでいた時を見る化しよう！	
(～中学・高校)		
(～専門・大学)	みんなが知らない自慢・一発芸・得意技	
(～現在)		
今		
マイプロジェクトの源泉へ		

← me編シート

- ・自分のライフヒストリーや好きだったこと、楽しかったこと、つらかったことなど
- ・自分の人生をグラフにしてみる
- ・普段見せない自己紹介

project編シート→

- ・自分と紐づいたプロジェクトを書き出す
- ・それは誰にどんな価値を生み出すのか

PROJECT編	
わたしのプロジェクト(マイプロジェクト)を一言で！	
■実践したいプロジェクトの概要	
■「やってみたい！」と思った、理由や背景、原体験	■「誰」にどんな価値を生み出しますか？

- ① **Why** : どんな「わたし」が何を夢描いているのか？
- ② **What** : それを実現する、何をするプロジェクトなのか？
- ③ **How** : プロジェクトを進めるため、進捗を管理しよう



① Why?

プロジェクト

② What?

プロジェクト

プロジェクト

わたしたち



③ How?
進捗管理

ビジョン実現に向けて、学習と軌道修正をくりかえす

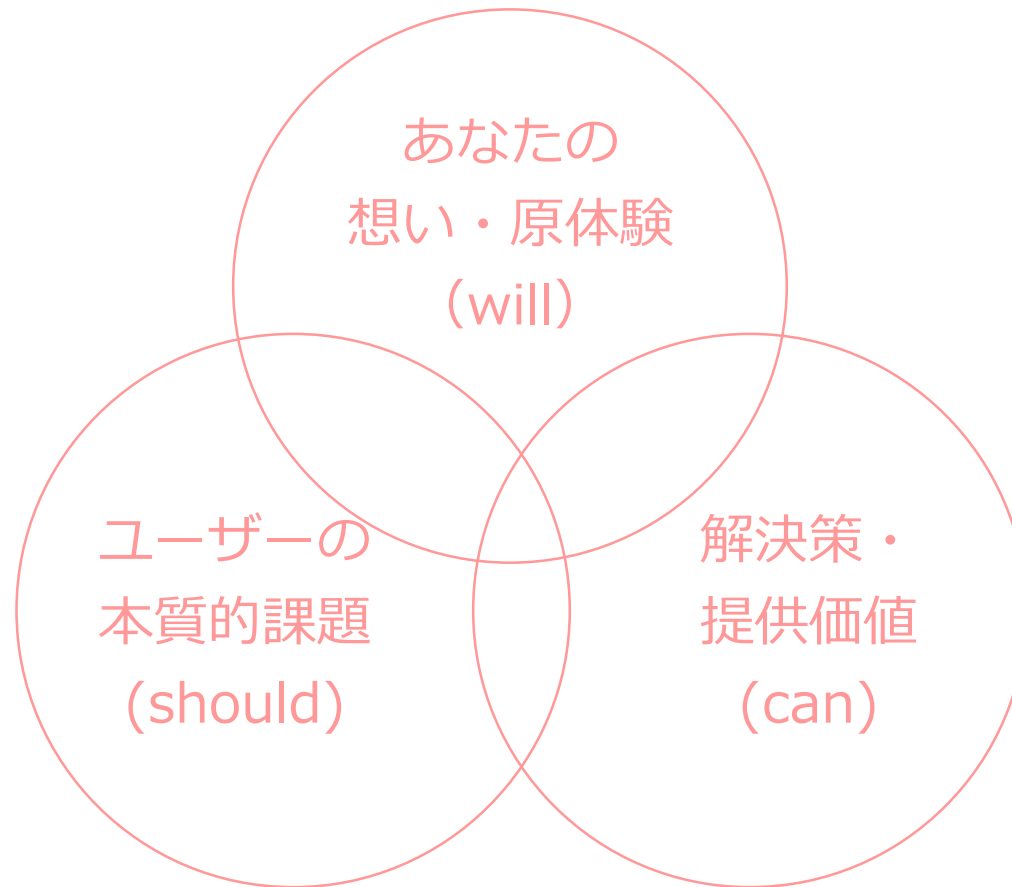


挑戦を支える“居場所”(セーフスペース)

- 自分たちとプロジェクトの“つながり”
- Yes, Andできる仲間やコミュニティの存在

マイプロジェクト =
自分に基づいた (my)
「何かを、プロジェクトの形にして (project) やってみる」ことから始まる、自分や世の中の変化の物語

出所: ボーンSTEIN& デイヴィス(2010訳書, p.114) 追加修正
※ 井上英文作成



【実施概要】

- 実施名称 四万十町地域イノベーター養成講座 第5回
- 日 時 令和元年12月7日（土） 13時00分～17時00分
- 会 場 高知県高岡郡四万十町江師546番地 四万十オートキャンプ場ウエル花夢
- 主 催 四万十町・高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室
- 実施内容 一人一人がジブンゴトトして、地域課題解決や活性化を目指す「チャレンジする人材」の学びを支援する「地域イノベーター養成講座」の第5回目を開催した。

【タイムライン】

- 13:00-13:05 主催者挨拶 横山光一氏（四万十町役場）
- 13:05-13:15 チェックイン
- 13:15-14:15 キーノートスピーチ 辻 悦子氏（企業組合でる・そーれ）
- 14:30-16:30 LSPワーク（リーンキャンバスの作成）
- 16:30-17:00 チェックアウト&クロージング

まず初めにチェックインで自身の今の気持ち、状態、この1か月で行ったことなどを軽く共有した。会場は明るい雰囲気、受講生も学生メンターも緊張した様子はほとんどなかった。「えー！」や「すごい！！」など誰かのチェックインに対して皆で反応して、人の言葉に耳を傾けるということが全体できている様子だった。



チェックインの様子①



チェックインの様子②



チェックインの様子③



チェックインの様子④

辻氏(企業組合でる・そーれ)キーノートスピーチを行った。スピーチの中で受講生は時折笑顔を見せながら、リラックスした様子で、また真剣に話を伺っていた。質疑応答も活発に行われ、受講生にとって非常によい時間となった。



辻氏によるキーノートスピーチ



リラックスして話を聞く受講生



集中して話を聞く受講生



自身の経験を語る辻氏

LSP(レゴ®シリアスプレイ®ワーク)を行った。5回目の講座ということもあり、時折悩ましい表情をのぞかせながらも、慣れた手つきでワークを進める受講生の様子が見られた。



須藤からのワーク説明



レゴワーク中の会場の様子



受講生の様子

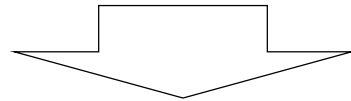


ワークにも参加した辻氏

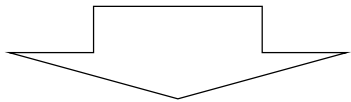
学生メンターと受講生との間の緊張感もなくなり、打ち解けた様子でグループ内で共有を行う姿が見られた。作成したレゴブロックには受講生のこだわりや個性が表れていた。



STEP1: “My Story” → “It’s me ”



STEP2: 「共に」 一歩踏み出す



STEP3: 仲間として支え合う

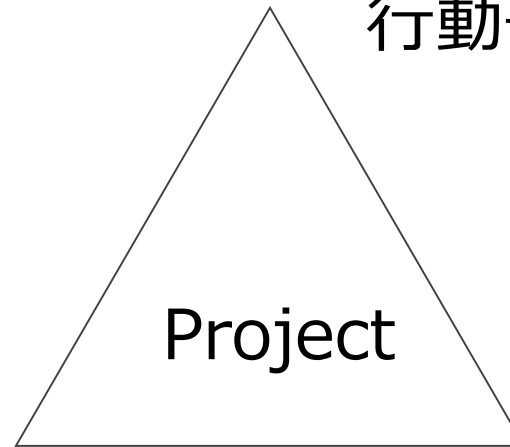
変化歓迎・失敗歓迎・立ち止まり歓迎

プロジェクトの成功より、

一人一人が自分の人生を生きているかどうか？

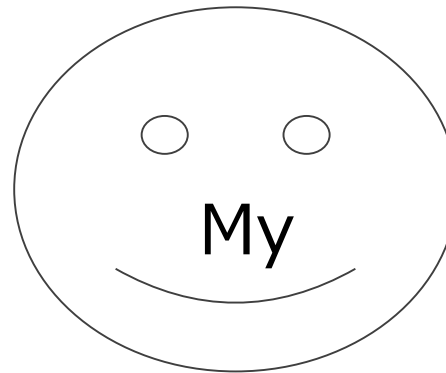
行動→気づきと仲間

「わたし」
のWill

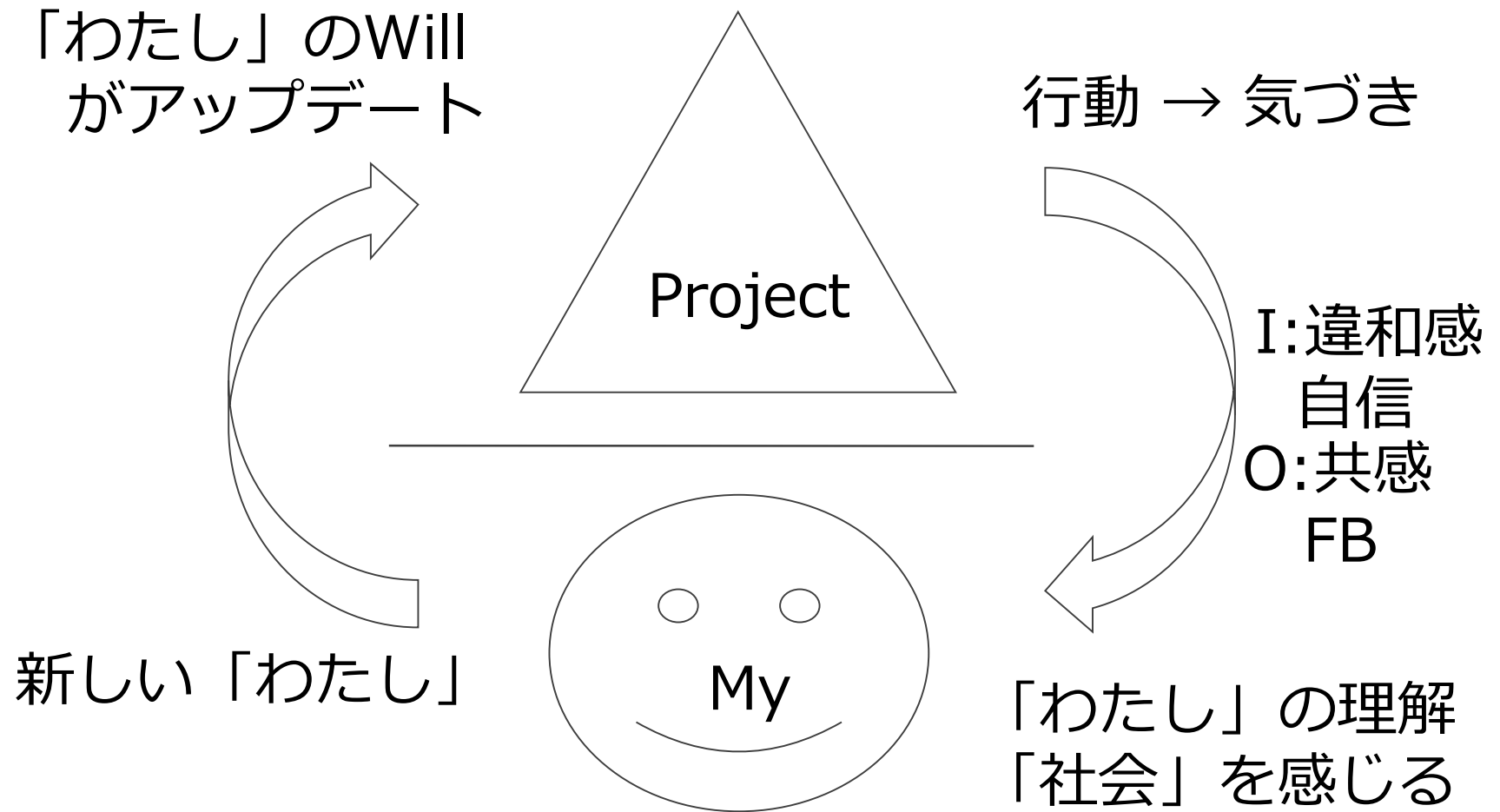


賞賛
共感
違和感
失敗
成功

新しい「わたし」



自信
「わたし」の理解



出所：ビジネス・ブレイクスルー大学 須子善彦氏作成資料より

① マイプロシート(me&pjt編)をみんなの前でシェア



② みんなからフィードバック



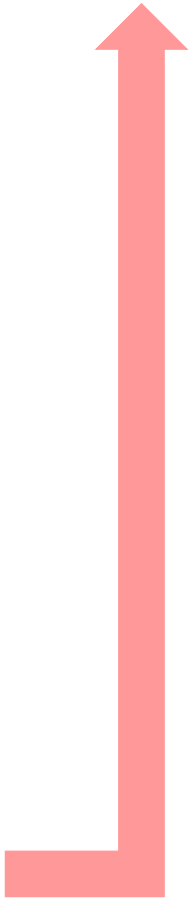
③ プレゼントカードを書いて渡す



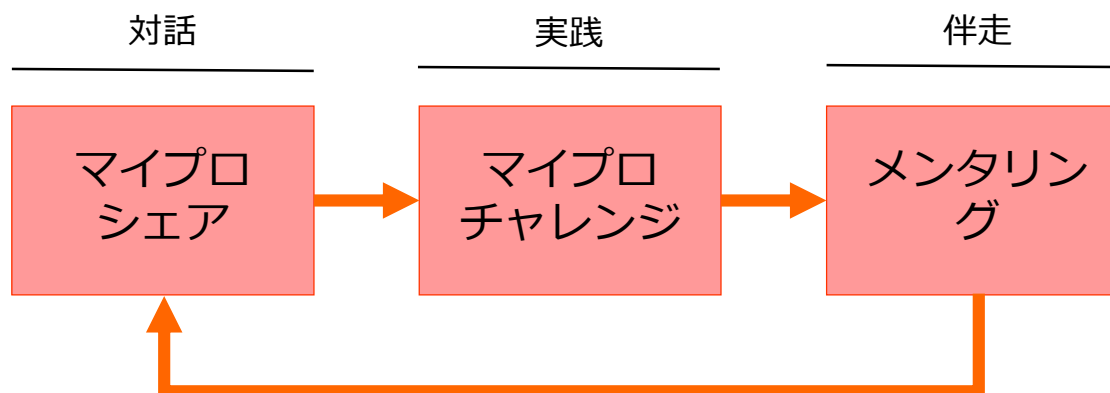
④ アクションを試してみる



⑤ 気づきを踏まえてシートを書き換える



※みんなで支え合いながら、
このサイクルを超高速で回していく



- 四万十町地域イノベーター養成講座は、誰かが知識や方法論を教えるのではなく、受講生一人ひとりと大学生メンターと一緒にマイプロジェクトを進め、喜びや悩み、想いを共有しながら一歩ずつ前に進んでいくことを目指します。
- 対話を通じて一人ひとりのマイプロを共有し、一人ひとりが小さな実践を行い、それを受講生と大学生が相互にメンタリングを行いながら、「本当に自分がやりたいこと」に取り組んでいきます。
- こうしたプロセスを通じて「ジブンゴトをミンナゴト」にしていくための一人ひとりに法則を見つけ出していきます。
- 地域にイノベーションを起こすためには知識や方法論、メソッドはもちろん、本当に自分がやりたいこと、気になることを、仲間とともに小さな一歩を進めることから始まる、というのが私たちの基本的な考えとして講座を進めていきます。

四万十町役場 人材育成推進センター

担当：横山 光一

〒786-0008 高知県高岡郡四万十町榊山町3番7号

TEL 0880-22-3163 FAX 0880-22-3123

E-mail 103060@town.shimanto.lg.jp

高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室(須藤順研究室)

担当：講師 須藤 順

〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1総合研究棟1階

TEL 088-788-8077 FAX 088-888-8043

E-mail j.suto@kochi-u.ac.jp

Web <http://www.communitydesign-kochi.jp/>

※本講座に関する問い合わせは上記までお願いいたします。

※本資料の無断での配布、外部組織や個人への配布・閲覧、及び二次使用は、固く禁止させていただきます。